



みんな誘って
「郷土の瓦展示場」へいこに！

郷土資料館に保管している粘土瓦の中から、「役所」、「学校」、「寺院」、「その他」の4つに分類して、屋根の飾りや魔除けとして使われている「鬼瓦」を中心に展示しています。



鬼の顔した鬼瓦

学校の鬼瓦



役所の鬼瓦



上の巴(ともえ)、下の「水」は
防火の願いを込めた鬼瓦



日本の粘土瓦の歴史は、今から1400年以上前の仏教の伝来とともに始まり、寺院建築を中心に発展しました。江戸時代後期になって、幕府の防火対策と軽くて安い棧瓦（さんがわら）の発明もあり、一般家屋への瓦屋根の普及が一気に進みました。

日本は地震や火山活動が多い国であり、火災に強く地震にもある程度耐えられる瓦は、現在も重要な屋根材として広く使われています。

瓦職人の技術と技を間近で見て、感じて、いにしえの郷土に思いをはせてください。

*次の企画展は、「R7年度 新春の企画展『あの時を刻んできた時計』」を、開催します。ご期待ください。

